



感動のそばに、いつも。

～未知なる出会い、未知なる体験の創造～

2023年6月2日

株式会社JT B ビジネスソリューション事業本部 第四事業部

本日の内容

- ▶ JTBのビジネスソリューション事業とは
- ▶ 私たちが考える創造性とは
- ▶ 私たちが考える創造性に対して出来る事と課題
- ▶ コンソーシアムを通して実現したいこと



本日の内容



- ▶ **JTBのビジネスソリューション事業とは**
- ▶ 私たちが考える創造性とは
- ▶ 私たちが考える創造性に対して出来る事と課題
- ▶ コンソーシアムを通して実現したいこと

Category

JTB Value

旅行外事業（成長事業）

旅行事業

1.Meeting & Event

JTB=ビジネスイベント全般における実施対効果のプロ

【人材会社の全社員KICK-OFF実施 2020/2021=オンライン開催 2022=ハイブリッド開催】

【ナショナルIT企業 ビジネスカンファレンス（オンライン）企画設計/会場手配/映像機材一式/配信一式/当日演出運営】

2.Human Resource

JTB=人を通じた企業活性化パートナー

【EVP（Employee Value Proposition）働き方改革で本社部門を支援】

【グローバル人材研修/モチベーションUP研修/ワーケーションコンサルティング】

3.地域交流

JTB=地方創生におけるビジネスパートナー

【全国で観光資源を活用した企業プロモーションを実施】

【企業同士を繋ぎビジネスを前進するビジネスリレーション】

4.Business Process Outsourcing

JTB=企業内業務プロセスにおける「企画→設計→実施」パートナー

【クライアント企業は『コア業務への集中』『固定費の変動費化』『専門的な業務品質』を実現。】

5.Promotion

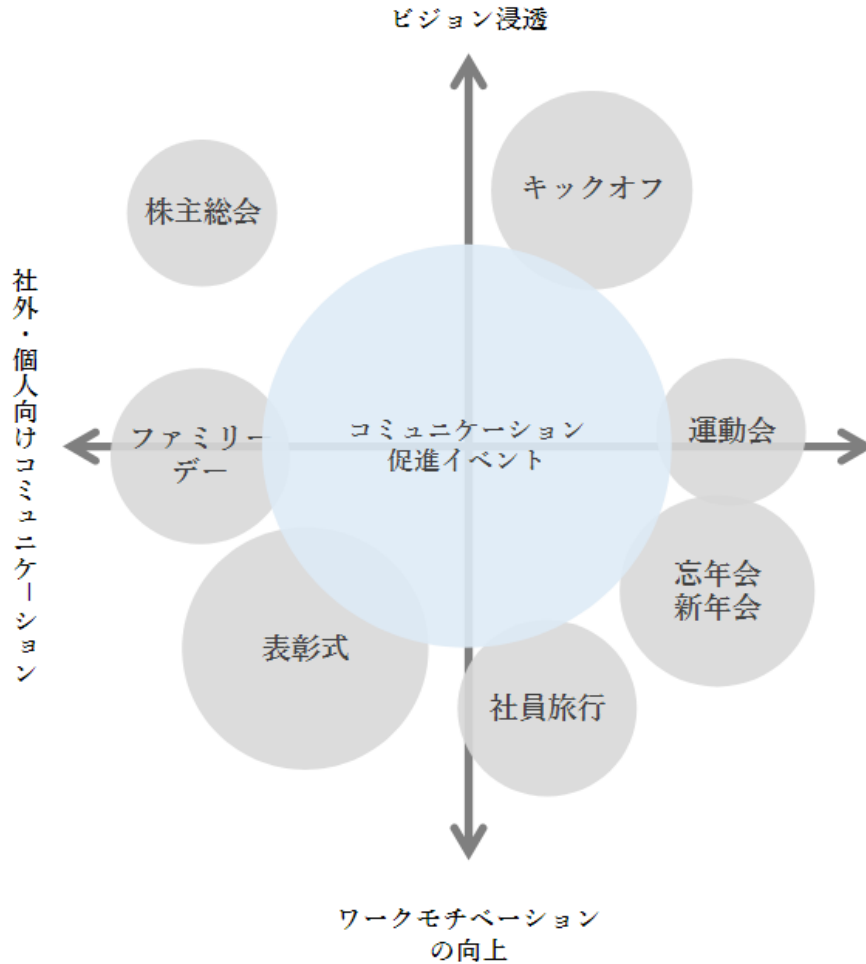
JTB=気軽な広告代理店

【旅に関わるプロモーション。インバウンド・アウトバウンド】

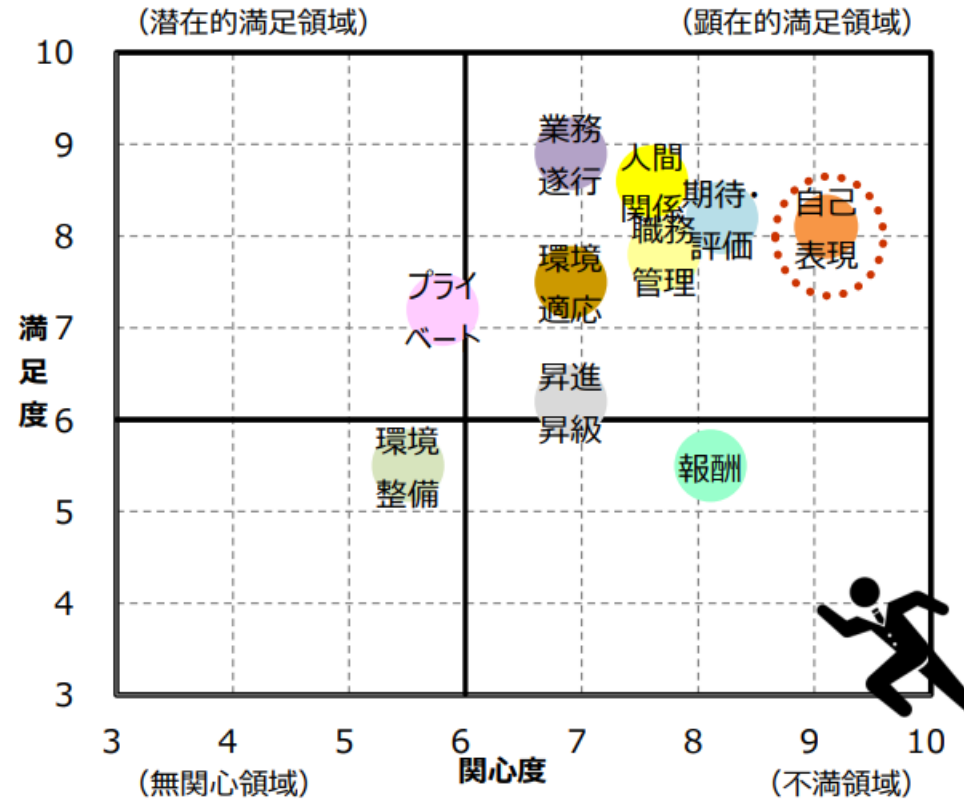
6.Travel 基盤事業

JTB=人が集い、人が集まる。

独自のモチベーション測定を30年前から実施



営業職員のモチベーション・スタイル



個人のレポート



活用の仕方

- 自身の内面に関する気づきを得て、やる気を向上させる方法を考える
- 上司と部下の面談の資料とする
- 研修のツールとする

パフォーマンス(仕事の成果・業績)

モチベーション

モチベータ(要因)

- 報酬
- 昇進昇級
- 環境整備
- プライベート
- 人間関係
- 期待・評価
- 職務管理
- 業務遂行
- 環境適応
- 自己表現
- 退職

組織分析のレポート



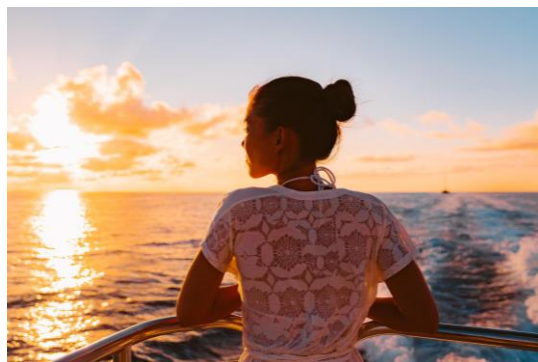
活用の仕方

- モチベーション向上施策策定の資料とする
- 部門長が部門運営戦略の参考資料とする
- 制度変更、教育研修などの効果測定として用いる

JTBグループは、40年以上前からヘルスケア（健康）に取り組み、サービスを提供。



旅行者・地域・企業・そして世界を「つなぐ・つなげる」



旅行者・旅先

日常・非日常



地域・旅行者

地域内

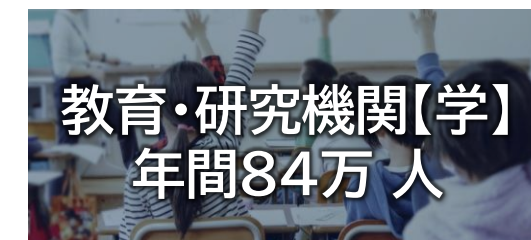


企業・従業員

企業・顧客



顧客接点



JTBのリレーションを掛け合せ、創造性につなげる

本日の内容

- ▶ JTBのビジネスソリューション事業とは
- ▶ 私たちが考える創造性とは
- ▶ 私たちが考える創造性に対して出来る事と課題
- ▶ コンソーシアムを通して実現したいこと



旅 = 未知との出会い・新たな体験

未知なる出会いや新たな体験をすることで
想像力が高まる



想像力を高めることで、
創造性の向上に繋げることが出来る。

農業労働力支援事業 「農業×ワーケーション」

JTBアグリワーケーション

JTBアグリワーケーション*
山形県天童市・東根市にて開催！

さくらんぼ収穫 × 社員研修

プログラムのご案内

働き方改革
ワーケーション制度

SDGs
社会課題の解決
持続可能な食と農への貢献

健康経営
非日常空間での健康
意識でエクササイズ

人材育成
チームビルディング
異業種交流会

CSR/ESG
地域との交流
地方創生に貢献

農作業は企業経営課題の解決に貢献します！

日本経済新聞

朝刊・夕刊 LIVE Myニュース 日経会社情報

トップ 選考 オピニオン 経済 政治 ビジネス 金融 マーケット マネーのまなび テック 国際 スポーツ 社会・興業 地域

JA全農山形・JTB・JAL、山形県のさらなる活性化へ貢献することを目的として農業支援で連携

企業：日本航空 産業：輸送・レジャー
2022年6月15日 14:41



発表日:2022年06月15日

JA全農山形・JTB・JALが農業支援で連携



～さくらんぼ県「山形」の食と農を未来へつなぐ～

全国農業協同組合連合会山形県本部（県本部長:佐々木英之、以下「JA全農山形」）と株式会社JTB(代表取締役 社長執行役員:山北栄二郎、以下「JTB」)と日本航空株式会社 東北支社(支社長:佐野寛人、以下「JAL」)は、山形県の魅力を発信し、観光PRや県産品「さくらんぼ」の流通促進につなげ、山形県のさらなる活性化へ貢献することを目的として、農業支援で連携します。

2021年4月にJA全農とJTBが、農業支援事業に関する連携協定を締結し、労働力不足が課題となっている農業現場での作業支援を起点とした、新たな雇用創出による地域活性化や地方創生に向けた取り組みを展開しています。

この度、JALの現役客室乗務員で構成される「JALふるさと応援隊」山形県担当をはじめ、航空貨物、営業部門を担うJAL社員が、6月15日(水)より計16日間、さくらんぼの収穫作業や選別、箱詰め作業を支援します。

JTBはこれまでの農業支援に加え、新たな取り組みとして、ワーケーションと農作業を組み合わせた「JTBアグリワーケーション(R) ※1」やスポーツ合宿と農作業を組み合わせた「アグリスポーツ」の取り組みにより、県外からの交流を促進し、関係人口の拡大を目指します。また、農業を通じた働く人の心と健康ケアを目的に「健康経営×農業」等の企業課題解決にも貢献出来る仕組みを提供する予定です。

3社協力による本取り組みを通じて、幅広く人々が農業に触れる機会を創出することで農業関係人口を増やし、社会・地域の課題解決の実現に取り組みとともに、各社がもつネットワークやサービスなどで連携を強化し、地域関係者の皆さまと力を合わせて山形の魅力を幅広く発信し、地方創生に貢献していきます。

※1 「JTBアグリワーケーション」は、JTBの登録商標です。



● 開催日

Aコース (3泊4日)	① 6/4日～6/7日
	② 6/7日～6/10日
	③ 6/14日～6/17日
	④ 6/18日～6/21日
	⑤ 6/20日～6/23日
※1泊2日での参加も可	
	⑥ 6/21日～6/24日
	⑦ 6/25日～6/28日
	⑧ 6/27日～6/30日
	⑨ 6/28日～7/1日
Bコース (4泊5日)	① 6/18日～6/22日
	② 6/19日～6/23日
	③ 6/24日～6/28日
	④ 6/25日～6/29日
Cコース (3泊4日)	① 6/18日～6/23日
Dコース	全日程にコースごとの日程を2日間併用します。

● プログラムモデル日程 (3泊4日)

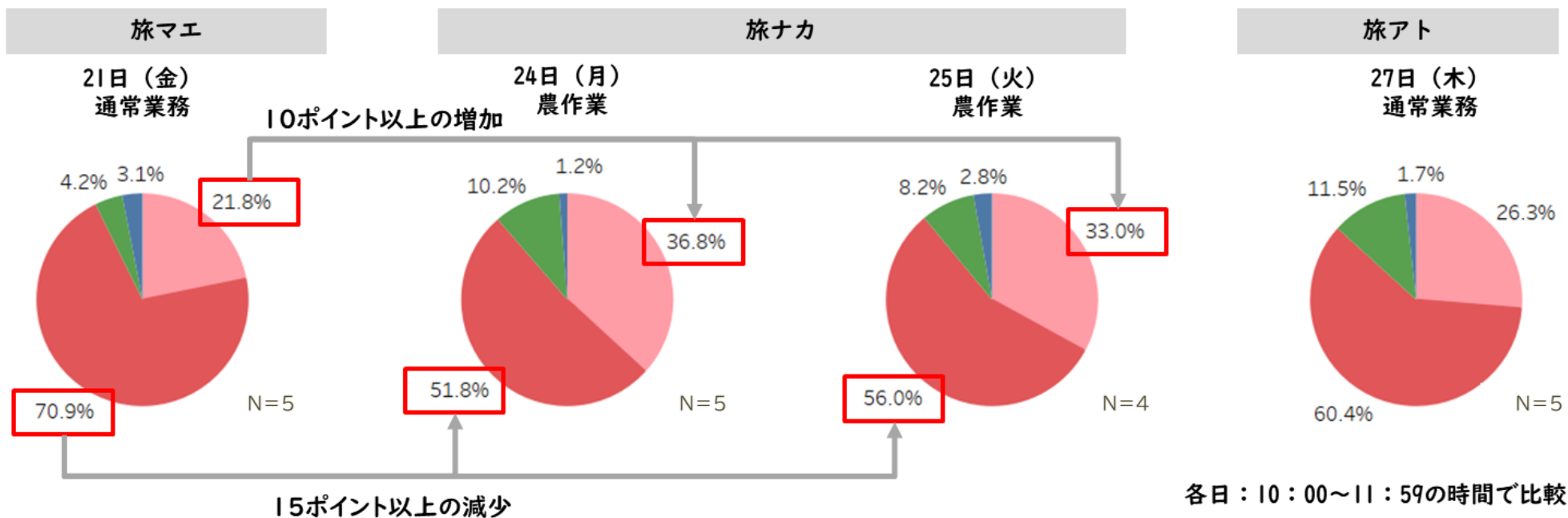
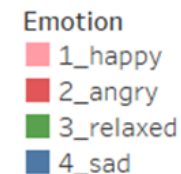
1日	<午前> 各地から移動	<午後> オリエентация又は異業種交流会参加
2日	<朝> 農産物のエクササイズ <昼> 農家さんからのレクチャー <午後> グループに分かれて収穫作業	<夜> 非日常空間での体験 <夜> 健康の現状を知る <夜> 食への意識向上と チームビルディングによる関係構築
3日	<朝> 農産物直売会へ参加 <午後> 農家さん、地域との交流	<夜> 地域を走る、学ぶ
4日	<午前> 「食・農」モチベーションとしたSDG x グループディスカッション <午後> グループプレゼンテーション 又は 異業種交流会参加	<夜> SDG x 食を自分ごと化へ アグリスポーツを通じて4日間を振り返ります

※ 農産物直売会、直売会参加、農産物直売会での販売、農産物直売会での販売

アグリワーケーション効果測定 「感情分析」

②結果（測定者全員の感情4分類の割合）

- 通常業務と農作業との感情比較
旅マエ・旅アトの日常業務の時間に比べ、旅ナカでの農作業時間の方が、「angry」の割合が低く、「happy」や「relaxed」の割合が高い。



【POINT】

1、旅先での経験により、解像度が上がる。
それを自身の今までの経験と掛け合わせる事で
創造性の発揮に繋がるのではないか。



2、効果を可視化する事により、企業の取組として取り入れる
＝継続的に想像力を養う場が生まれる

本日の内容

- ▶ JTBのビジネスソリューション事業とは
- ▶ 私たちが考える創造性とは
- ▶ **私たちが考える創造性に対して出来る事と課題**
- ▶ コンソーシアムを通して実現したいこと

地域課題を感じて学ぶビジネス交流プロジェクト

スケジュール (※予定)

Communicate-1 (全体説明会)	2023年 10月上旬
Communicate-2 (オンラインセッション)	2023年 10月中旬
Experience (現地視察)	2023年 10月下旬
Innovate (事業共創プレゼンテーション)	2023年 11月中旬
Sustain (GSP Lounge)	2023年 12月上旬

プロジェクト全体代金 お一人様 880,000円(税込)

最少催行人員 20名(募集定員 30名)

現地視察時の旅行条件 (抜粋)

- ・ 旅程 2泊3日(詳細別途ご案内致します)
- ・ 利用ホテル 日田天領水の宿
- ・ 客室 1名1室利用
- ・ 食事条件 朝食:2回 / 昼食:2回 / 夕食:2回
- ・ 交通機関 現地集合/解散

資料請求 2023年 8月25日(金) まで
※申込は先着受付順となり定員になり次第締めさせていただきます。

旅行企画・実施

株式会社JTB ビジネスソリューション事業本部 第四事業部

観光庁長官登録旅行業第64号
(一社)日本旅行業協会正会員
住所: 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング31階

ポイント保証合済 旅行業公正取引協議会 会員

※総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所での取引責任者です。ご旅行の契約に不明な点がございましたら、速断なく上記の総合旅行業務取扱管理者にお問い合わせください。

※予告広告です。正式な募集は2023年9月にご案内する予定です。

GLOCAL Sustainability Project

2023年度 第三期
EXPERIENCE 実施要項

感じて学ぶ
SUSTAINABLE CRAFTSMANSHIP
現地視察3日間の流れ

Day 1 LECTURE

全体レクチャー

平原 依文氏 HI合同会社 代表、青年版ダボス会議日本代表
私たちはなんのために働き、一人ひとりの働きがどのように社会と繋がっているのか。企業はなんのために存在し、企業利益に加えてどのような成長を目指していくのか。前半では、パーパスを起点としたESG経営の「本質」について国内外の企業や地域の事例を用いて徹底解析します。後半では、「未来の顧客」を意識した社会課題解決型のワークショップを行います。

意見交換会

ただ一方的に話を聞くだけではなく、グローバルレベルで活躍する地元の経営者、自治体職員、企業人を始めとする地域パートナーの方々と「つながり、未来を創る」インタラクティブな対話のお時間も設けます。

Day 2 FIELDWORK / DIALOGUE

SUSTAINABLE CRAFTSMANSHIP
進化し続ける伝統から学ぶブランド作り

日田市における「職人技」を見て体験し、環境配慮だけではなく「From JAPAN to the WORLD」を前提としたものづくりを学べます。

WHY HITAZ?

かつて九州の中心であった大分県日田市では、小鹿田焼や竹細工を始めとする暮らしに寄り添うものづくりが日本だけではなく、世界から注目されています。地域資源を活用したものづくり、どのようにして世界に誇れるブランドに変わっていったのか。AI時代と呼ばれる今、職人がこれまで築き上げてきた「MADE IN JAPAN」に迫っている人材不足や機械化の課題をどのように乗り越えているのか。日本が誇るものづくり文化の根拠とこれからについて学んでいきます。

小鹿田焼の現場を通じて「本物のブランドづくり」について考える

世界から注目される「小鹿田焼」のブランド作りと持続可能な「焼き方」を学ぶことで、自社のビジネスにとって必要な「作り方」「売し方」のあり方について深く考え、グローバルなブランドづくりに活かしていく。

「もったいない精神」から生まれたアップサイクル作りを体験する

日本の主力産業である「繊維業」と「農業」が持つ真の課題を学び、グローバルでも認知度の高いもったいない精神を活かしたブランド作りについてヒントを得てアップサイクル商品を自ら作り、価値の転換を体験する

クンチョウ酒蔵より日本酒から誕生した「かけあわせ」を学ぶ

大手メーカー含む組合が多い中でも伝統を守りながら時代に合わせて「変わり続けている」クンチョウ酒蔵の歴史や酒造りの工程を学び、酒造りや場所作りを体験することで、自社の新規事業で何ができるのかを考えていく

「職人」と「デジタル」の融合で世界レベルのクラフトマンシップを実現する

ものづくり文化を大切にしている地元企業の代表や職人との対話を通じて、デジタルの発展がある中で、職人による「手仕事」と機械が持つ「製作用力」を融合させた持続可能な形でクラフトマンシップを再定義していく。

学びから行動へ 現地での体験を振り返り、プレゼン作り。自社と仲間（GSP参加者）と新たなプロジェクトに向けた...

Day 3 PRESENTATION

プレゼンテーション

2日間を通じて感じて学んだ内容をアウトプットし、サステナブルな事業開発構想の実現につなげていきます。

地域課題 (サステナブル要素)

8. 働きがいも働きやすい

職人不足

11. 高齢化

ロス問題

12. 資源問題

自然破壊

13. 気候変動

2023年6月2日

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

15

自分を表現する場

新たな発見、出会い

仲間との
コミュニケーション

人、自然、文化
とのふれあい

相乗効果

働く

遊ぶ



好循環を生み出す
仕組みづくり

課題①

想像力が養われる遊びのシーンを**企業が主導**して作っていいのか
(現状では福利厚生としての扱い)

課題②

想像力が養われるシーンをどの様に**継続**して作れるのか
(ワーケーション等の制度、アウトプット機会など、仕組みづくりが不十分)

課題③

働く遊ぶ(暮らす)の境界線

オンオフのメリハリが無い状態もありなのは・・・
働く時間への対価だけでは無い価値観をつくる

Work **or** Vacation
Work **with** Vacation
Work **≡** Vacation

本日の内容

- ▶ JTBのビジネスソリューション事業とは
- ▶ 私たちが考える創造性とは
- ▶ 私たちが考える創造性に対して出来る事と課題
- ▶ **コンソーシアムを通して実現したいこと**

様々な旅行のかたちを創り出し、ムーブメントを創り出す

ヘルスツーリズム

全国に広がるヘルスツーリズム

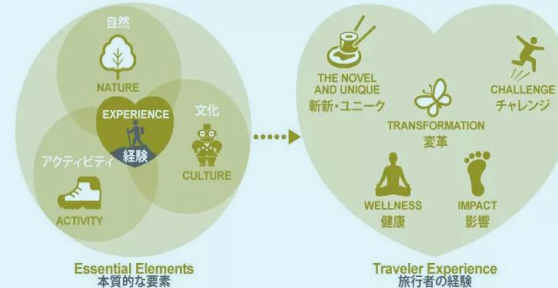
近年、行動変容を促しやすい旅のシーンを中心に地域特性が活かされたヘルスケアサービスとしてのヘルスツーリズムの輪が広がってきました。全国的にラインナップが広がったことでヘルスケアサービスとしても認識されるようになり、国内外問わず需要が拡大してきています。



アドベンチャーツーリズム

アドベンチャーツーリズムの魅力とは？

アドベンチャーツーリズムは旅行者自らがじっくりその土地を歩き、五感を使って地域ストーリーを感じる旅行のスタイルです。体験できる場所、体験目的、体験の難易度によってさまざまなタイプに分類されますが、多くのAT旅行商品にはハイキング、トレッキング、サイクリング、ラフティング、カヤックなどが盛り込まれています。



出展：「地域の自然体験型観光コンテンツ」/国土交通省 観光庁 観光資源課

グリーンツーリズム

「究極のグリーン・ツーリズム」を標榜する達者村

青森県名川町観光振興課 (現南部町農林課グリーン・ツーリズム推進室)

青森県南部の「さくらんぼの里 名川町 (現南部町)」に地図上には存在しないバーチャル・ビレッジ (擬似農村)がある。それが日本一面白い村、そして中高年層の楽園と「究極のグリーン・ツーリズム」を標榜する「達者村」である。

名川町のグリーン・ツーリズムの原点は古く、20年続いている「さくらんぼ狩り」がスタートであった。周囲を山々で囲まれた盆地に位置する当町は、古くから果樹栽培が盛んであり、特にさくらんぼは県内の栽培面積、収穫量を誇っており、地域振興の起爆剤とするべく、農業体験や郷土料理、南部手踊りといった地域文化を生かした「名川型交流」が確立されていった。



様々な体験から創造性を豊かにする旅

イマジネーションツーリズム！？

創造性のフレームワーク

創造性のプロセス

知の拡張

知の結合

知の精錬

個人
(認知・行動)

個人旅行

グリーンツーリズム
(現地とのふれあい)

集団
(関係)

社員旅行

チームビルディング研修
(オフサイトミーティング)

組織
(規範・構造)

イマジネーション
ツーリズム(仮)
～創造性を
刺激し合う旅～

働きかけの対象

1、旅行の価値の再定義

なんとなくリフレッシュ・なんとなくオープンマインドでは無い、
創造性を高める効果としての価値＝イマジネーションツーリズム

2、コンソーシアムのオフサイトミーティング

皆さまと会議室では無く、オフサイトで話せたら、
もっと創造性が高まるのでは？



The logo for JTB, consisting of the letters 'JTB' in a bold, white, stylized font. The 'J' is thick and curved, the 'T' is also thick and has a slight curve, and the 'B' is thick and rounded. The letters are set against a solid blue background.

感動のそばに、いつも。